

2022年7月期全塾協議会定例会議事録

2023年10月7日

全塾協議会

全塾協議会規約 第22条第1項に基づき、2022年7月31日に開催された全塾協議会定例会の議事録を公開する。ただし、役職役名ならびに条数は議会当時のものである。

議事概要記録

名称	2022年7月期全塾協議会定例会
場所	対面（三田キャンパス西校舎523-B教室）・オンライン(Webex)
日時	2022年7月31日 15:00~

出席者

	塾生代表	山田健太
芝学友会	芝学友会 会長	横山さくら
全国慶應学生会連盟	全国慶應学生会連盟常任委員会 常任委員長	東條克哉
福利厚生機関本部	福利厚生機関本部 代表	松尾和真
文化団体連盟本部	文化団体連盟三田本部常任委員会 委員長	松尾和真
体育会本部	体育会本部 主幹	菊池龍志
四谷自治会	四谷自治会 会長	藤村悠哉
全塾ゼミナール委員会		欠席
	全塾協議会事務局 事務局長	後藤美汐
	全塾協議会事務局より他4名	
以下議案提出者	矢上祭実行委員会 財務	松下香穂
	卒業アルバム委員会 財務	岩切晴菜
	芝学友会 財務	片岡 奈緒
	湘南学祭実行委員会 財務責任者	小西海晟
	應援指導部 代表	小竹栞
	應援指導部 財務	中島由茉
	国際関係会 財務	三國谷レナ
	全塾協議会事務局 財務部長	土肥諒紀

次第

項目	担当・議案提出者
1. 開会宣言	事務局長 後藤美汐
2. 塾生代表挨拶	塾生代表 山田健太
3. 定足数確認	議事部長 大澤治香
4. 配布資料の確認	
5. 議事録作成報告	

項目	担当・議案提出者
6. 議長の指名	
7. 議題	
(1) 塾生代表報告 [20220731-01-JSD]	塾生代表 山田健太
(2) 事務局報告 [20220731-02-JMK]	
i. 総務政策部報告	総務政策部長 舟山純平
ii. 財務部報告	財務部長 土肥諒紀
iii. 議事部報告	議事部長 大澤治香
iv. 広報部報告	広報部 舟山純平
v. 局長報告	事務局長 後藤美汐
(3) 議長の選任 [20220731-03-OTR]	議員 横山さくら
(4) 優勝準備委員会発足についての議案 [20220731-04-OTR]	議員 松尾和真
(5) 卒業アルバム委員会の独自財源特別支出承認申請 [20220731-05-SAI]	卒業アルバム委員会 財務 岩切晴菜
(6) 矢上祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請 [20220731-06-YGM]	矢上祭実行委員会 財務 松下香穂
(7) 芝学友会の独自財源特別支出承認申請 [20220731-07-SGK]	芝学友会 財務 片岡奈緒
(8) 湘南学祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請 [20220731-08-SNG]	湘南学祭実行委員会 財務責任者 小西海晟
(9) 應援指導部の活動報告 [20220731-09-OES]	應援指導部 代表 小竹栞
(10) 應援指導部の交付金特別支出承認申請 [20220731-10-OES]	應援指導部 財務 中島由茉
(11) 国際関係会の交付金特別支出承認申請 [20220731-11-IIR]	国際関係会 財務 三國谷レナ
(12) 全塾協議会事務局の交付金特別支出承認申請 [20220731-12-JMK]	全塾協議会事務局 財務部長 土肥諒紀
(13) 塾生代表の全塾協議会事務局に関する議案 [20220731-13-JSD]	
(14) 塾生代表の全塾協議会規約規則改正に関する議案 [20220731-14-JSD]	塾生代表 山田健太
(15) 塾生代表の全塾協議会の基本政策に関する議案 [20220731-15-JSD]	

項目	担当・議案提出者
(16) 議員のリーダーズキャンプに際する交通費に関する議案 [20220731-16-OTR]	議員 横山さくら
8. 連絡事項	議事部長 大澤治香
9. 閉会宣言	事務局長 後藤美汐

議決事項

議案識別子	提出者	議事名	可否
20220731-01-JSD	塾生代表	業務報告	採決なし
20220731-02-JMK	全塾協議会事務局	業務報告	採決なし
20220731-03-OTR	議員 横山さくら	議長の選任	可決
20220731-04-OTR	議員 松尾和真	優勝準備委員会発足についての議案	可決
20220731-05-SAI	卒業アルバム委員会	独自財源特別支出承認	可決(修正)
20220731-06-YGM	矢上祭実行委員会	独自財源特別支出承認	可決(修正)
20220731-07-SGK	芝学友会	独自財源特別支出承認	可決(修正)
20220731-08-SNG	湘南学祭実行委員会	独自財源特別支出承認	取り下げ
20220731-09-OES	應援指導部	活動報告	採決なし
20220731-10-OES	應援指導部	交付金特別支出承認申請	可決(修正)
20220731-11-IIR	国際関係会	交付金特別支出承認申請	可決
20220731-12-JMK	全塾協議会事務局	交付金特別支出承認申請	可決
20220731-13-JSD	塾生代表	全塾協議会事務局に関する議案	採決なし
20220731-14-JSD	塾生代表	全塾協議会規約規則改正に関する議案	採決なし
20220731-15-JSD	塾生代表	全塾協議会の基本政策に関する議案	採決なし
20220731-16-OTR	議員 横山さくら	リーダーズキャンプに際する交通費に関する議案	可決(修正)

2023年8月13日 議事録作成

全塾協議会事務局 事務局長 後藤美汐

(署名)

全塾協議会規約第22条に基づき、事務局長の署名は省略する。

この議事録が正確であることを証する。

塾生代表

山田健太

(署名)

山田 健太

全塾協議会 議長
(3 番項まで)

(署名)
横山さくら 2023 年 10 月 7 日付で議事録を真正なものであると確認した。

全塾協議会 議長
(4 番項より)

(署名)
松尾和真 2023 年 8 月 23 日付で議事録を真正なものであると確認した。

議事詳細記録

1. 開会宣言

事務局長 後藤美汐が開会を宣言した。

2. 塾生代表挨拶

塾生代表 山田健太が挨拶を行った。今月期の定例会は以前に比べて開始時刻が早いので、議案に関して十分な議論を行いたいという旨を述べた。また室内であっても熱中症対策のために十分な水分補給を行うよう呼び掛けた。

3. 定足数確認

議事部長 大澤治香による点呼により、定足数を満たしたことが発表され、本会の成立が確認された。

4. 配布資料の確認

議事部長 大澤治香が、既に配布された資料の確認を行った。

5. 議事録作成報告

議事部長 大澤治香は、夏休みに入ったことに伴い、議事録作成を8月中に行う旨、担当者を決定したうえで作成説明を行う予定だとした。

6. 議長の指名

議事部長 大澤治香は、全塾協議会規約第 10 条に基づき議長の選任方法を諮ったところ、満場一致を以って芝学友会会長 横山さくらが議長に選任された。

7. 議事

(1) 塾生代表からの業務報告

塾生代表 山田健太より業務報告が行われた。定例業務に加え、各種取材対応、9月に行われるリーダーズキャンプに向けて、希望団体と予算折衝を行った旨を報告した。

(2) 事務局からの業務報告

i. 総務政策部報告

通常業務に加え、事務局内の資料の整理を行っている旨を報告した。

ii. 財務部報告

通常業務に加え、特別支出許可番号発行、予算書類の回収を行ったと報告した。なお、体育会本部、卒業アルバム委員会、四谷祭実行委員会は予算書類が未受理である旨を伝えた。

iii. 議事部報告

通常業務を行ったと報告した。また、過去の定例会の議事録を事務局の新入局員に作成してもらう旨を伝えた。

iv. 広報部報告

通常業務を行ったと報告した。

v. 事務局長報告

各種面談、及び事務局員との1on1を行ったと報告した。ここで塾生代表 山田から事務局内の新人事編成を報告してほしいという旨が伝えられた。事務局長 後藤は変更点として、今回の人事により、事務局長が清瀬竜生から後藤に交代し、清瀬は広報部に配属になったと報告した。また、事務局次長は議事部長の大澤治香が務めると報告した。

(3) 議長の選任

議員の横山さくらより議長の選任に関する議案が上程された。

横山さくら議長は、文化団体連盟三田本部常任委員会委員長 松尾和真を次期議長に指名し、松尾和真はその指名に基づいて議長の職務を引き継いだ。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(4) 優勝準備委員会発足に関する議案

議員 福利厚生機関本部代表 松尾和真より優勝準備委員会発足に関する議案が提出された。

塾生代表 山田健太は、特別委員会は特定の事業用の福利厚生機関であり、毎年発足するものであるため、交代は存在しないと議会内で認識を一致させた。本議案の提出者である優勝準備委員会委員長予定者である鎌倉有里が欠席であったため、議長は本議案を保留とした。

その後、委員長予定者の鎌倉が参加し、再度議案が取り扱われた。鎌倉は、野球部が優勝した際の優勝準備委員会であるとし、前回の春リーグ(コロナ禍)で優勝できなかったため、優勝パレードを実施することができなかったことから、今回の秋リーグで優勝した際には優勝パレードを行いたいと述べた。山田は現在のメンバー構成について質問し、鎌倉は三田実行委員会4名、慶早戦支援委員会3名、文化団体連盟本部1名、その他2名で構成されていると回答した。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(5) 卒業アルバム委員会の独自財源特別支出承認申請

卒業アルバム委員会より、独自財源特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥4,060	事後	電車、バス代	早慶戦の撮影のため	2022年8月前半、後半
2	¥1,197	事後	飲食費	早慶戦の撮影のため	2022年8月前半
3	¥6,972	事後	電車代	ゼミ撮影及び個人撮影のため	7月前半(7月定例会で承認)

					された6月期の申請)
--	--	--	--	--	------------

その内容は、事前申請：①【人件費】卒業アルバムのゼミ撮影及び個人撮影のバイト代(一人¥600/hで計算し、¥160,950)、②【飲食費】卒業アルバムのゼミ撮影及び個人撮影の昼食代(¥21,543)、③【交通費】卒業アルバムのゼミ撮影及び個人撮影の電車代(¥6,972)、④事前申請からの超過分(¥419)

事後申請：①【交通費】(1)第86回早慶バレーボール定期戦の撮影のため(2)第30回早慶ラクロス定期戦(7月2日)、第80回早慶バスケットボール定期戦(7月2日)、第94回早慶対抗水上競技大会(7月3日)の撮影のため(4,710円)、②【飲食費】第30回早慶ラクロス定期戦、第80回早慶バスケットボール定期戦、第94回早慶対抗水上競技大会の撮影のため

である。担当者から、事前申請③は、委員4に関しては普段は三田を利用しているのにもかかわらず、今回回田町から利用しており、理由が不明瞭だと判断し、申請の取り下げをしたとの旨、事後申請①は複数の撮影を一度に行っているため、結果として申請内容が複雑となっている旨が伝えられた。また、事後申請①(2)は往復切符がもらえなかったため、領収書がないとの旨の補足がなされた。

ここで、事務局財務部長 土肥諒紀より、①全てICではなくて切符運賃になっている。切符はICに比べ比較的値段が高い傾向にあるが、なぜ切符を利用したか ②バスケットボール早慶戦の撮影のために、原宿～小机を移動しているが、最安値ではない理由、の2点に関して質問がなされた。これに対し担当者は、どちらに関しても理由が不明であるため確認を行うとした。議長はこの項を保留とし、担当者の返答を待つとした。

塾生代表 山田は直近の卒業アルバム委員会の申請に関して、交通費の事後申請が多いことを指摘し、対策はどのように行っているか、担当に質問した。担当は、委員会内で事前申請を行うようにと再三伝えているが、改善されていないと現状を述べた。これに対し山田は、その呼びかけに実効性がないのではないかと指摘した。同時に、一度事後申請があった人には事後申請を求めずに自己負担とする、といった方針を団体内でとっていただけないのであれば、全塾協議会から何かをしなければならぬとの見解を示し、来月期でも事後申請がないように注意をした。また、事後申請の対策として、団体内で事後申請防止に向けどのような対策を行ったか報告をするよう促した。担当者は次回期に対策の詳細を伝えるようにすると述べた。

土肥は、本件とは異なるが、予算書類がまだ提出されていないので、事務局財務部に提出するよう催促した。担当者は前任者が出してないので早急にお願いしますとした。

(担当者より返答があったと連絡)

担当者は土肥の質問内容に関し、①切符の方が領収書をいただける可能性が高いため ②こちらについても①で指摘された通り切符を用いた交通費としたうえで、最安値では領収書の枚数が増え、煩雑になることから別のルートを利用した、と説明があった。その上で、最安値分のみの申請として修正し、余剰分は個人での支払いにするとした。

また、担当者より領収証がない交通費に関する申請の方法に関して質問があった。事務局長 後藤は出金伝票をSlackの確認シートに記載するよう回答した。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(6) 矢上祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請

矢上祭実行委員会より独自財源特別支出承認申請が上程された。

許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
------	------	----	------	------

1	¥25,280	事前	電車代	かわさきロボット競技大会参加のため	2022年8月下旬
2	¥2,520	事前	電車代	企画用小道具買い出しのため	2022年8月下旬
3	¥57,420	事前	Adobe Illustrator 代	広告物作成のため	2023年1月下旬
4	¥102,510	事前	Slack プロプラン契約費	委員内の連絡を Slack に移行するため	2022年8月上旬

詳細は以下の通りである。

① 【交通費】かわさきロボット競技大会参加のための交通費（¥25,280）

矢上祭ロボットコンテストの広報のために、川崎ロボット大会に出場している。審判の練習や前日の練習のために毎年川崎まで向かっており、これに伴い交通費を申請した。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により大会が中止となってしまったため、該当の支出はない。

② 【交通費】企画用小道具買い出しのための交通費（¥2,520）

企画用のラジコン部品をホームセンターで購入する際の費用。各自の最寄駅～日吉は定期券で向かうことができるため、日吉～高田（ホームセンター最寄り駅）間の交通費とした。こちらの項目も昨年度は行っていなかったため、該当する項目はない。

③ 【諸経費】火薬類消費許可申請の申請手数料（¥7,900）

打ち上げ花火を行うのに際し、火薬を消費する許可書類が必要である。そのため横浜市消防局に対する申請手数料として申請を行った。昨年度申請なし。

④ 【備品費】パンフレット、ポスター等広告物作成のためのソフト代（¥57,420）

Adobe のイラストレーター利用に関する費用。年間プランではなく月毎プランに変更するように全塾協議会から提案があったため、月毎プランに変更を行うこととした。来年の1月の試験終了後の春休み～新歓までのポスター作成のためにソフトを購入する。

⑤ 【備品費】所属委員の Slack プロプラン契約費（8月分 ¥960 × (1-0.85) × 340 個 = ¥48,960
9月分 ¥1,050 × (1-0.85) × 340 個 = ¥53,550、合計 : ¥ 102,510)

2022年9月1日より Slack のプロプランが960円/人から1050円/人に値上げされるため、8月と9月で金額が異なっている。ただし、学割による値引き率（85%）は変化しない。

塾生代表 山田健太は、諸経費の横浜市消防局に対する支出は、特別支出申請不要とした。また、備品費に関しても問題はないとしたが、交通費が高額ではないかと指摘をした。小道具の買い出しは複数回に分けてする必要があるのか質問した。担当者は、買い物の量が多く、一度で運ぶことは不可能とした。山田は購入内容を確認したうえで、回数について了承した。

つづいて、事務局 土肥より、交通費が切符料金になっている理由についての質問と、資料内の誤字の指摘がなされた。担当者は前者の質問に対し、IC でチャージをした際には領収書が発行できるが、それ以外だとできないから切符を使ったという旨を述べた。その内容に関して事務局 舟山は、降りた駅で申請すると領収書は発行されると述べた。山田は、舟山が述べた方法で今後申請をしてくれるのであれば、今回の申請内容を必要はないとした。土肥は山田に対し、Slack の申請は必要か確認を行った。山田は、個人に結びついているので考慮の余地はあるとしたものの、今回に関しては申請するようという見解を示した。これを踏まえ、議長は火薬類唱歌許可申請手数料を除いて議決を行うとした。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

最後に土肥は担当者に対して、予算書類等に関して受理しているが返信できていない旨を伝えた。

(7) 芝学友会の独自財源特別支出承認申請

芝学友会より、独自財源特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥1,150	事前	電車代	日吉キャンパスに予算書類を提出するため	2022年8月前半
2	¥5,045	事前	名刺代	芝学友会員の名刺を作成するため	2022年8月前半

その内容は、①【交通費】リーダーズキャンプ参加者の交通費（4名分¥7,512）②【交通費】予算案提出時の交通費（650円×2往復=¥1300）③【名刺代】名刺作成のための贈答品費（¥454(100部・税別)×9人+¥409(消費税)+¥550(配送料)=¥5,045）である。

担当者は、①に関して、4つ目の項目が1000円となっている点に関し、参加者が未決定であるため、概算で1000円とした。

事務局 土肥はリーキャンの交通費に区間が示されていないと指摘した。これに対し担当者は、区間を南砂町→日吉（片道¥538）、蔵前駅（都営浅草線）→日吉（片道¥492）、千住大橋→日吉（片道¥650）であると補足した。

次に土肥は、③に関してどの会社を利用しているのか、また名刺は全員が必要なのか質問した。これに対し、塾生代表 山田健太は、業者は必ずしも書かなくて良いと内容を訂正したうえで、なぜ9人分名刺が必要なのか説明を求めた。担当者は、今年からオフラインで活動することになったため、新入生に対しても役職を書かずに3～4年使えるように本年発行を予定している旨を伝えた。現在は古い名刺しかなく、講演会に参加する際に名刺を渡すなど、使用用途が明確であるため申請したとした。

土肥は交通費について先程の質問に続き、予算案提出時の650円のルートは、最安値ではないと伝えた上で、差額は自己負担になると述べた。これに対し担当者は、事前申請なので、修正して提出する予定である旨を伝えた。土肥は、現在リーダーズキャンプの交通費は芝学友会のみ申請であると確認したうえで、他の上部団体議員に向け、申請するのか質問をした。山田は、リーダーズキャンプの交通費に関しては後で取り扱うとした。後藤はリーダーズキャンプが日吉で行えなくなる可能性があるとして補足をし、それらの内容を受け担当者はリーダーズキャンプに関する交通費は一度取り下げた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(8) 湘南学祭実行委員会の独自財源特別支出承認申請

湘南学祭実行委員会より、独自財源特別支出承認申請が上程された。

内容は、①【運送費】事後申請：ご協賛いただいた各企業様へ開催予定のお知らせ・パンフレットを送付に伴う郵便代（レターパック代3点、第一種定形外53通¥12,240）、②【運送費】事前申請：ご協賛いただいた各企業様へ七夕祭実施のお礼を送付するための郵便代（¥11,760）である。担当者は①に関し、申請漏れのため事後申請となったと報告した。

事務局 土肥は担当者からメールが届いたが返信できていないことをまず陳謝したうえで、今回の申請はどちらも郵送代であるため、現在の財務管理の手引きに基づくと申請は不要であると述べた。そのため、申請が取り下げになると担当者に確認した。担当者は、特別支出承認申請に当たらないのであれば議案自体を取り下げると述べた。

議長は、この事項について議案取り下げとした。

(9) 應援指導部の活動報告

應援指導部より、活動報告がなされた。担当者は、対面練習や試合等に積極的に参加、その他執行部会

などの会義の実施や SNS 各種投稿を行ったと報告した。塾生代表 山田は、熱中症対策に関して、選手は良くても、応援するサイドにまでその配慮がなされていないとの声があることを挙げ、団体としての見解を求めた。担当者は、応援活動に関して休憩時間を多く設けられるように、部員を半分ずつ交代させて、飲料の準備をしていると述べた上で、今後の夏の屋外での練習は危険であるため、夕方から夜の時間帯に練習時間をずらしたうえで休憩時間を増やしたという旨、また距離をとってマスクを外してトレーニングを行うようにしたと報告した。山田は、熱中症対策関連で新しく必要な場合は、事前申請でお願いしたいと担当者に伝えた。

(10) 応援指導部の交付金特別支出承認申請

応援指導部より、交付金特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥160,000	事前	レンタカー代	體育會応援における器材運搬のためのレンタカー借用費用として	2022年8～9月
2	¥10,000	事前	駐車場代	體育會応援における器材運搬のためのレンタカーの外部駐車場費用として	2022年8～9月
3	¥40,000	事後	レンタカー代	第86回早慶バレーボール定期戦における器材運搬のためのレンタカー借用費用として	2022年7月30日

事務局長 財務部長土肥は駐車場代が高いのではないかと質問し、担当者は一日中駐車するため金額が高くなると説明した。続けて土肥はレンタカーの種類に関して質問し、担当者はハイエースだと回答した。加えて、団体内でも所有しているが、団体所有分では不足する可能性があるため、その際にレンタカーを利用しているとの旨を伝えた。土肥はレンタカーの燃油代について質問し、担当者はバレー早慶戦の際に使ったレンタカーであるが、営業日にレンタカーを返すため、まだ燃油代は不明であるとした。塾生代表 山田は燃料代に関し、現在使っているのか質問し、事後申請であるため金額が確定されているべきだとした。これに対し担当は、正確な支出が定例会翌日になると述べた。事務局長 後藤は、領収書の発行が8月1日(定例会翌日)になるのであれば、8月期の定例会で議案を提出いただければ減点には当たらないと見解を述べた。山田は先程の質問に加えて、駐車場代は現在も加算中であるか質問した。担当者は、駐車場代はまだ現在進行形で加算されていると回答した。

山田は、①レンタカー代だけ事後申請を認め、その他の項目は8月1日に事後申請をするのが良いとし、②③に関しては額面がわかっていない段階で事後申請は承認できないとした。土肥は、翌日に額面が決定するのに、本日申請しているため、事前申請として通してよいのか山田に質問した。これに対し山田は、システム上、額面が決定していない駐車場のみ事前申請にすることは可能であると回答した。しかし、レンタカー代と燃油代は事後申請であるのに、駐車場代だけ事前申請なのは齟齬があるのではないかと見解を示した。これを踏まえ、議長はレンタカー代以外の駐車場代と燃油代は来月期申請する旨を担当者に伝えた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(11) 国際関係会の交付金特別支出承認申請

国際関係会より、交付金特別支出承認申請が上程された。

まず初めに、塾生代表 山田より、国際関係会の提出している予算が承認されるべきか否か判断が難しいと考えたため、今回詳細が決定したものを団体から提出していただいた旨を述べた。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	33,000	事前	施設利用料	夏期プログラム開催のための留学生会場利用費	2022年8月前半
2	2,700	事前	施設利用料	カルチャーデイ開催会場利用費¥5,400のうち、留学生20名の施設利用分	2022年8月前半
3	4,520	事前	施設利用料	スポーツデイ開催会場利用費¥9,040のうち、留学生20名の施設利用分	2022年8月前半
4	14,850	事前	施設利用料	クリエイトデイ開催会場利用費¥29,700のうち、留学生20名の施設利用分	2022年8月前半
5	14,850	事前	施設利用料	フェスティバルデイ開催会場利用費¥29,700のうち、留学生20名の施設利用分	2022年8月前半
6	33,000	事前	施設利用料	フェアウェルデイ開催会場利用費¥55,000のうち、留学生30名の施設利用分	2022年8月後半

担当者は上記の内容に関して改めて申請したと報告した上で、夏期プログラム費留学生との交流会を行うための申請であり、これは渡航枠確保の意味を持つと述べた。

事務局長 後藤は、¥55,000の会場を抑えて、参加者の人数で割ったものが、¥33,000と記入されていることを指摘したが、担当者は、医院の分は参加費として回収するために差し引いていると回答した。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(12) 全塾協議会事務局の交付金特別支出承認申請

全塾協議会事務局より、交付金特別支出承認申請が上程された。

	許可金額	申請時期	品名	支出理由	支出時期
1	¥135,000	事前	回数券代	二次監査において、事務局員が各自宅と日吉キャンパスを往復するのにかかる交通費	2022年8月前半

担当者は、二次監査用の交通費であり、事前に事務局員に対してアンケートを取り計算しているとした。回数券を購入し、参加度合いに合わせて枚数を増やしていくとした。塾生代表 山田は、交通費に関しては議論の余地があるが、かなり削減した後であるため、議会は理解を示していただきたいと述べた。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

(13) 塾生代表の全塾協議会事務局に関する議案

塾生代表 山田健太より全塾協議会事務局に関する議案が上程された。

山田は、全塾ゼミナール委員会委員長 三河創太から情報共有がされたとし、私を信用して承認して頂きたいと述べた。経緯については先月もなされていたので補足となるとしながら、全塾協議会事務局は団体の性質上、一般のサークルとは異なるため成果を上げなければならず、成果を上げる必要な手順を組むためには体制変更が必要だと判断したと述べた。

これに加え、今回の体制変更の目的は成果をあげることだとし、現在一定の成果は出ており、マネジメントスキルが現事務局長にあるためだと考えられるとの見解を示した。またその点に加え、私を信用し

てほしいと言ったからには、引き続きこの件に関し監督していきたいと考えているため、何か問題があれば連絡してほしいと全体に呼び掛けた。

この件に関しては議決を採る必要性はないと考えているとの見解を示し、議員 三河は、解決を塾生代表に委任したと考えているため、山田がそう考えるなら反対する必要はないと考える旨を述べた。山田は三河に対し感謝を述べ、自身の方針を進めるとした。

(14) 塾生代表の全塾協議会規約規則改正に関する議案

塾生代表 山田健太より全塾協議会規約規則改正に関する議案が上程された。

塾生代表は、規約規則の変更を希望する旨を述べた。まず規約に関して、議会に関する権限、事務局の業務を明記し透明化を図る旨を述べた。続いて特別委員会に関して、コロナ等の突発的な事態に対応するために単一の年度で行うことを前提としているが、優勝準備委員会などは毎年行っているため、その対応を検討したいとした。さらに選挙に関して、議員は現在の中から選挙管理委員を自動的に選出している現状を述べ、本当にその方式で良いのかと疑問を呈した。議会が最高意志決定機関である以上、的確な議員の選出が必要なのではないかと考えを述べ、公選議員を導入し、国民審査のような形の運営を行うことを提案した。

そして、慶應義塾大学と東京歯科大学が合併されるに際して話題に上がって事項として、

- ・慶應義塾の自治会費は安いですが、他の大学並みに上げるとより大きなことができるのではないかと。
- ・自治会費は、慶應義塾が学費と同時に代理徴収してくれている。この代理徴収は合法なのか。
- ・コロナ以降活動が縮小されているにもかかわらず、学費と同時に自動的に自治会費が徴収されるのは不当に感じる学生も多いのではないかと。

の3点を挙げた。これらの議論事項に対し山田は、塾生代表を含め議会の正当性を向上する必要があるとし、精力的に参加してくださっている議員の方が多いため現在の時点で、何かしらの策を早急にとっていきたいとした。そのために、明文化されていない議会の活動や進め方を規則に明記し、簡易化できるところは簡易化したいと述べた。後者の簡易化に関しては、オンライン利用により容易に簡易化できるのではないかと見解を示した。議会中に判断に迷う議案がいくつかあるが、議会に持ってくる以前に規則を閲覧することで、提出者自身で解決できると良いと意見を述べた。

議長である文化団体連盟三田本部常任委員会委員長 松尾和真は、議員全体に意見を求めた。芝学友会代表 横山は、自治会費の恩恵を受けていない人は、上部団体に所属していない人のことを指すのではないかと指摘し、上部団体の代表に関わる問題ではないと見解を示した。それに対し山田は、上部団体としての各団体の代表の正当性はそれぞれで担保してもらい、重要なのは議員権を得られるのが誰かという問題であるとした。議会に議案を提出するためには300人以上の合意が本来必要であるにもかかわらず、「議員だから」という理由で安易に提出し、議決を採ることができるという点において、議員権は想像以上に強力であるとした。横山は、山田の見解に対し、議員審査を導入すればよいのではないかと述べたが、山田は、この議論は現在の議員の正当性を持たせることが主目的であるとし、直近で活動していない団体が議員権を持つことに対しての不当性をなくしたいため、個人に対して賛否を問うのではなく、団体代表が議員権を持っていていいのかどうかを問うというという認識を示した。また現状として、塾生代表選挙の時に合わせてその選挙はできるという見解を示した。

それに対し、横山より議案を出す条件をもう少し下げる提案がなされたが、山田はこれに対し、議案を出す条件を下げた場合、議案が大量に提出される可能性もあり、適切ではないとした。影響力を広げてい

くという意味では、議員が塾生の要請を受けて議案を出してもらえると良いと述べた。

全国慶應学生会連盟常任委員会常任委員長 東條克哉は塾生に還元されるというのが担保されているということが大切という認識で良いか山田に確認した。山田はその認識であるとし、特別委員会を設置する際には議員レベルの責任のある人が委員長をやるのが大切であるため、余裕のある議員を増やして、塾生により還元できる体制を作っていくのは良いとの見解を示した。

東條は、全国慶應学生会連盟は特に塾生に還元できているかと言われると答えづらいと述べ、構成員数も新型コロナウイルスの影響により 10 分の 1 となっている現状から、今自分自身が議員権を持っていることについても議員自身はどのように考えているか意見を伺いたいと述べた。

山田は、全国慶應学生会関連盟を復興するために尽力していくことを前提とした場合、団体に参加していないところも存在する現状を述べ、各キャンパスからも代表が来るようになった今、全国慶應学生会関連盟として何をカバーするのかを明確にすべきだとした。例として、地方出身の学生を増やすために地方に向かって高校生に対して説明会を行うなどの意義があるのではないかと考えを示した。加えて、議員が各上部団体に所属する塾生の意見を議会に還元するように働いてほしいとしたうえで、その手段以外で塾生に還元できる場面（例：新歓の支援）を増やしたいと述べた。信頼性を高めるという点では公選であり、議決権を持つ団体の見直しが必要なのではと意見を述べた。

福利厚生機関本部代表 松尾和真は、應援指導部に長年所属している現状を踏まえ、公選委員はもっとも構成であるが、現実的ではないとした。東條さんよりもさらに耳が痛いと感じる議案だと述べた。生活しているうえで福利厚生機関本部は塾生の意見を聞く機会はないと述べた。

山田は、総交代が一番明確に構成であるとしながら、福利厚生機関本部や芝学友会の下には傘下団体を有しているという特徴を挙げ、本来すべての団体の力を合わせれば想像をはるかに超えた議論が成り立つと推測した。議員の皆さんに協力してもらえればより簡単に署名等を集めることができるため、現在の制度（上部団体）をなくすのはなかなか難しいとした。もし別制度で行うのは、二院制にするか、またはこの議場に公選委員を入れるのか議論の余地があるとした。しかし、議会を増やすということは非現実的。今はトップダウン、ボトムアップは導入しようと考えれば可能であるが、その制度を知らない人も多いのが事実であり、改革に痛みを伴うのも事実であるとした。

体育会本部主幹 菊池龍志は、体育会に 59 団体所属している現状を述べ、これからの時代に合わせてどう塾生に還元していくか、我々の団体内でできることがまだあると意見を述べた。それに対し山田は、上部団体に限った話ではないが、塾生（特に所属団体に）「全塾協議会に所属している」ということをもっと知ってもらう必要があると唱えた。現状全塾協議会に所属している理由は財務のみしかないのではないかと推測し、全塾協議会がお金の価値以外に生み出すことができなければ 1 人 750 円以上の還元はできないため、付加価値をつけていきたいとした。

四谷自治会会長 藤村悠哉は、議員は現状行儀よく座っているだけであり、四谷自治会が四谷キャンパスを代表しているかと言われると分からないと意見を述べ、山田さんの仰っている通り、お金を配るだけが役割になってしまっているため正当性を上げていきたいと見解を示した。解決策として、議員の席をいただく権利を塾生代表選挙時に聞くことを提案した。これに対し、山田は好ましくないとしながら、上部団体を指名するというのも可能だと述べた。現状では議員の席は自動で決定されているため、塾生代表が議員を変えるためには規約の改正が必要となり、そのためには議決が必要であるとした。民意を反映できるのは塾生代表選挙しかないという現状を指摘し、議会には塾生代表の暴走を止める権利もあるが、別の観点で言えば議員の暴走を止める手段がない、または議決を止めることができても取り下

げることにはできないと述べた。また、「塾生代表は誰でもなれる」という点がメリットでもありデメリットであるとし、例えばガーシー（東谷義和氏）などの危険人物が今後なってしまう可能性があるため、塾生代表と議会のパワーバランスは非常に難しいと述べた。

文化団体連盟三田本部 松尾和真は、自身の団体にやる気のある人が少ない現状を述べた。自分自身は偶然興味があったが、先程もあったように文化団体連盟本部の存在意義はお金に収斂するとし、公選議員を偶数人足すという可能性はあり得るとした。

山田は、世の中にもある通り、立法・行政・司法というのはどこの組織でも変わらないとし、全塾協議会の場合を考えた時に、司法は議会、立法機関も議会ではないかと考えた。弱気な発言をすると、議会に参加する団体を選ぶ時に今の団体が選ばれるかは分からないため、最高裁判所の国民審査の形をとるのが良いのではないかと述べた。民意も反映できる上に、最高裁判所の罷免もされていないため団体も罷免はされないであろうと述べた。現在、委員の皆さんの半数が2期以上経験されているとし、1期目は正直把握することでいっぱいであるが、現在は委員にも余裕があるだろうから、今が良いチャンスなのではないかと述べた。現在の好機が訪れるのはいつになるか分からないと述べ、皆さんに持ち帰っていただきたい内容は議員の皆さん自身の団体の正当性かどうか、または改善の方法はあるかという旨を伝えた。規約の量は多いが、重要な部分は全塾協議会規約であり、ここは読んでいただきたいと強調した。加えて財務、選挙なども読んでいただきたいと述べた。なお、規約規則改正は夏休み中を目途に進めていきたいとした。

(15) 塾生代表の全塾協議会の基本政策に関する議案

塾生代表より、全塾協議会の基本政策に関する議案が上程された。

1点目は国際関係会の予算について、このコロナ禍により、120万円近く繰り越す現状を述べ、繰り越すこと自体に問題はないが、120万を単に繰り越すのは塾生の還元につながらないという観点から、80万円ほど返還していただきたいとの旨を述べた。

2点目は slack について、他の団体との連絡をより簡潔なものにし、横のつながりを構築したいという観点から、夏休み中に正式に導入したいと述べた。

3点目は、性暴力について毎月開催しているワークショップ（性暴力対策ワークショップ）を毎月同じ日付（例：第三水曜日）で開催する方針を明かした。毎月同日開催にすることにより運営が円滑に進む、専門家などを呼びやすいため提案したという。しかし、その日程では参加不可の方が発生されることが推測されるため、偶数月と奇数月で開催する日付を変更するなどして対応したいと述べた。

(16) 議員のリーダーズキャンプに際する交通費に関する議案

議員 横山より、リーダーズキャンプに際する交通費に関する議案が追加された。

塾生代表 山田は、リーダーズキャンプの際の交通費について。去年は支出していなかったが、申請で支出されている代もあった現状を踏まえ、議員の意見の伺いたいとした。

文化団体連盟本部 松尾は、団体内で交通費云々で話し合った記憶がないことから、支出を許可しなくてよいとの見解を示した。藤村は自分自身が申請しないという観点から許可しなくてよいという考えを示したが、申請があれば支出を許可してもよいのではないかと述べた。菊池は許可しなくてよいという考えを示し、福利厚生機関本部 松尾、東條もこれに同意した。

これらの見解に対し、横山は自宅から日吉までが遠いという現状を述べ、議案提出者の横山は支出を許

可していただきたいとした。他の団体員にも負担はかけたくないという理由から、今回議案を出させていただけると述べた。

文化団体連盟本部 松尾は、支出していただきたい団体には出すという方針でよいのではないかと述べた。これに対し山田は、自身は費用を請求したことがないと述べ、議員は強制で選ばれているわけではないという現状を述べ、定例会やリーダーズキャンプが存在することは事前に理解することが可能だとした。これに伴い、リーダーズキャンプは現地開催であるということも把握可能であるとの見解を示した。リーダーズキャンプで交通費の請求が可能であると最初から決定されているは、「リーダーズキャンプに関する支出が許可されるならば他の申請もよいのでは」となし崩し的に交通費の制限がなくなってしまう危機感を示した芝学友会に関しては独自財源会計であるため許可してもよいとの見解を示してよいとした一方で、塾生全体から見れば交付金も独自財源も同じ印象であるだろうと推測し、今後の対応について皆さんと話したいと述べた。

これを踏まえ、議長は一度議案を持ち帰るように横山に伝えた。山田は、原則として交付金財源から交通費を支出することは認められないが、独自財源から支出する事は禁止されていないとしたうえで、芝学友の件については取り下げとした。

全塾協議会はこれを全会一致で可決し、塾生代表 山田健太は本決議を承認した。

8. 連絡事項

議事部長 大澤治香は、全塾協議会規約 第 19 条に基づき次回全塾協議会定例会の日程について諮ったところ、次回全塾協議会は 2022 年 8 月 29 日（月）に開催となり、詳細は追って連絡する運びとなった。事務局長 後藤美汐は、リーダーズキャンプの日程に関して 9/1~9/3 で確定しているが、開催予定の日吉キャンパスが工事中の為、キャンパスが未定であるためご留意いただきたいと連絡した。

9. 閉会宣言

事務局長 後藤美汐が閉会を宣言し、18:31 に閉会した